

慢性疼痛診療システムの均てん化と
痛みセンター診療データベースの活用による医療向上を目指す研究
～地域一般住民における家族機能と慢性疼痛の関連：久山町研究～

研究分担者 細井 昌子 九州大学病院心療内科 講師

研究要旨

家族機能とは、「家族構成員の基本的要求を満たすために家族が一つの単位として一緒に作用できる家族の能力」のことである。慢性疼痛患者において家族機能が痛みに及ぼす影響を検討した報告は散見されるが、地域一般住民を対象とした研究はない。本研究では、福岡県久山町の地域一般住民（2575名）を対象に家族機能と慢性疼痛の有症率および重症度の関連を検討し、家族機能の低下に伴い慢性疼痛を有するリスクが有意に上昇していたことが明らかになった。また、軽度の痛みよりも、中高強度の痛みを訴える地域一般住民において、家族機能低下の影響がより強く見られた。

日本における慢性疼痛のマネジメントにおいて、家族機能を考慮することの重要性が示唆された。

家族機能各群の頻度は、正常群 48%、境界

A. 研究目的

慢性疼痛患者において家族機能が痛みに及ぼす影響を検討した報告は散見されるが、地域一般住民を対象とした検討はない。本研究では、地域一般住民を対象に家族機能と慢性疼痛の関連を検討した。

群 33%、家族機能不全群 19%であった。慢性疼痛の有症率は 49%であった。慢性疼痛を有するオッズ比（95%信頼区間）（多変量調整後）は、正常群に比べ、境界群で 1.20（1.01-1.44）、家族機能不全群で 1.45（1.16-1.82）と有意に上昇した。疼痛強度別の解析では、軽度の痛みよりも中高強度の痛みにおいて、家族機能の影響が大きくみられた。

B. 研究方法

2017-2018年に福岡県久山町の住民健診を受診した40歳以上の住民のうち研究に同意し、質問紙調査を受けた2017-2018年に福岡県久山町の住民健診を受診した40歳以上の住民3,492名のうち、質問紙調査を受けた2,575名（男性1,135名、女性1,440名）を対象とした。

D. 考察

家族機能が慢性疼痛の有症率や重症度に関連する心理的メカニズムとして、家族機能が低下することにより、家族関係の中で破局的思考や痛み行動、不適切なコーピングが増強し、疼痛の慢性化・重症化が起こる可能性が考えられる。

家族機能は Short Version of the General Functioning Subscale of the McMaster Family Assessment Device (GF6+) で評価し、正常群（ ≤ 1.8 点）、境界群（ > 1.8 点、 ≤ 2.0 点）、家族機能不全群（ > 2.0 点）に分類した。慢性疼痛は罹病期間3ヶ月以上とした。統計解析にはロジスティック回帰分析を用いた。

社会的因子としては、家族機能が低下することにより、家族間でのサポート力、家族外からのソーシャルサポートが低下し、疼痛の慢性化・重症化が起こる可能性がある。

（倫理面への配慮）

対象者には研究の説明を文書で行い、文書で同意を得た。

E. 結論

わが国の地域一般住民において、家族機能の低下に伴い慢性疼痛を有するリスクは有意に上昇した。慢性疼痛のマネジメントにおいて、家族機能を考慮することの重要性が示唆された。

C. 研究結果

F. 健康危険情報

総括研究報告書にまとめて記載

G. 研究発表

1. 論文発表

1. 細井昌子; 慢性疼痛とアサーション—自尊心の回復と失感情症への対応の重要性—; 精神療法 46(3), 336-341, 2020
2. 細井昌子; 慢性疼痛における心理社会的因子と気象関連痛: 自律神経機能低下をきたす愛着・認知・情報・行動障害の悪循環; ペインクリニック 41(6), 759-766, 2020
3. Shibata, M, Ninomiya, T, Anno, K, Kawata, H, Iwaki, R, Sawamoto, R, Kubo, C, Kiyohara, Y, Sudo, N, Hosoi, M. Parenting style during childhood is associated with the development of chronic pain and a patient's need for psychosomatic treatment in adulthood: A case-control study. *Medicine (Baltimore)*. 2020 Jul 17; 99(29):e21230. doi: 10.1097/MD.00000000000021230.
4. 細井昌子、安野広三・高齢者の慢性疼痛—昭和世代の心理社会的特徴を読み解く—; *Prog. Med* 40(8) 811-815, 2020

2. 学会発表

1. 齊藤貴文, 柴田舞欧, 平林直樹, 森崎悠紀子, 安野広三, 須藤信行, 二宮利治, 細井昌子; 地域一般住民における家族機能と慢性疼痛の関連: 久山町研究; 第 13 回日本運動器疼痛学会 (WEB), 2020.11.28-12.25
2. 柴田舞欧, 二宮利治, 齊藤貴文, 平林直樹, 森崎悠紀子, 安野広三, 須藤信行, 細井昌子; 地域一般住民における慢性疼痛の定義と有症率の関連: 久山町研究; 第 13 回

日本運動器疼痛学会 (WEB), 2020.11.28-12.25

3. 細井昌子, 安野広三; いきいきリハビリノート: 心身医学的観点からの使用方法; 第 13 回日本運動器疼痛学会 (WEB), 2020.11.28-12.25
4. 細井昌子; 慢性疼痛における社会的敗北ストレスと愛着障害: 難治例から心の問題を考える; 第 42 回日本疼痛学会 (WEB), 2020.12.4
5. 細井昌子, 茂貫尚子, 稲吉真美子, 井上綾子; 慢性疼痛と女性統合医療: 予防としての安全基地の重要性; 第 24 回日本統合医療学会 (WEB), 2020.12.12
6. 伊津野巧, 細井昌子, 安野広三, 足立友理, 富岡光直, 茂貫尚子, 稲吉真美子, 田中佑, 須藤信行; 線維筋痛症難治例に対してマインドフルネスを有効化するための工夫: 支持の重要性; 第 60 回日本心身医学会九州地方会 (WEB), 2021.1.31
7. 村上匡史, 細井昌子, 安野広三, 田中佑, 足立友理, 茂貫尚子, 稲吉真美子, 須藤信行; 家庭での安心感の不足に対して家族への介入が有用であった慢性疼痛 (両手指) の一例; 第 60 回日本心身医学会九州地方会 (WEB), 2021.1.31
8. 田中佑, 安野広三, 細井昌子, 村上匡史, 柴田舞欧, 須藤信行; 慢性疼痛患者における完璧主義特性と中枢性感作との関連; 第 60 回日本心身医学会九州地方会 (WEB), 2021.1.31
9. 永江悠子, 細井昌子, 富岡光直, 須藤信行; 描画を用いた日記が治療に有効であった線維筋痛症の一例; 第 60 回日本心身医学会九州地方会 (WEB), 2021.1.31
10. 村上匡史, 安野広三, 田中佑, 足立友理, 茂貫尚子, 稲吉真美子, 須藤信行, 細井昌子; 過剰適応傾向が強い慢性疼痛 (両手指) 患

者に対して段階的心身医学的治療が有効であった一例; 第 50 回日本慢性疼痛学会(WEB), 2021.3.19-20 (オンデマンド,2021.4.1-4.30)

11. 齊藤貴文,柴田舞欧,安野広三,須藤信行,細井昌子; 地域一般住民において家族機能は慢性疼痛の有症率および重症度に関連する:久山町研究; 第 50 回日本慢性疼痛学会(WEB), 2021.3.19-20 (オンデマンド, 2021.4.1-4.30)
12. 細井昌子,田中佑,安野広三,村上匡史,柴田舞欧,須藤信行; 完璧主義特性と中枢性感作関連症状との関連:慢性疼痛難治例における検討; 第 50 回日本慢性疼痛学会(WEB), 2021.3.19-20 (オンデマンド, 2021.4.1-4.30)
13. 安野広三,村上匡史,田中佑,細井昌子; 難治性慢性疼痛患者に対する心理的アプローチ〜一般身体科から心理アプローチを進めるときの患者側の抵抗感に対処するコツ(テクニック)〜心療内科受診初期における対応の難しさ(ワークショップ 6); 第 50 回日本慢性疼痛学会(WEB), 2021.3.19-20 (オンデマンド, 2021.4.1-4.30)
14. 坂本英治,津田緩子,安野広三,前田愛,藤田曜生,岡澤和哉,永富祐太,須藤信行,細井昌子; 家族との葛藤が影響していた口腔顔面痛に対して歯科と心療内科の連携が奏功した一例; 第 50 回日本慢性疼痛学会(WEB), 2021.3.19-20 (オンデマンド, 2021.4.1-4.30)

3. その他
該当なし

(研究協力者)

- 齊藤貴文 1, 2)、柴田舞欧 3, 4)、
安野広三 2, 4)、
平林直樹・田中 佑・村上匡史・足立友理・森崎悠紀子 4)、
富岡光直 4, 5)、
二宮利治 3, 6)、
須藤信行 2, 4, 5)
- 1) 麻生リハビリテーション大学校 理学療法学科
 - 2) 九州大学病院 集学的痛みセンター
 - 3) 九州大学大学院医学研究院 附属総合コホートセンター
 - 4) 九州大学病院 心療内科
 - 5) 九州大学大学院医学研究院 心身医学
 - 6) 九州大学大学院医学研究院 衛生・公衆衛生学分野

H. 知的財産権の出願・登録状況(予定を含む)

1. 特許取得
該当なし
2. 実用新案登録
該当なし